

第2部 ジェンダー問題の多角的検討特別委員会の 活動経過

I 委員会の活動経過

(1) 委員会の開催状況

第1回委員会 ー平成12年11月2日ー

本委員会の活動方針について

ジェンダー問題の定義、学術のジェンダー構造、日本のジェンダー問題、性犯罪とジェンダー問題等について検討していくことが提案され、今後課題を具体化していくこととした。

第2回委員会 ー平成13年1月19日ー

本委員会の活動方針について

課題に関する報告

岩井宜子委員「フェミニスト犯罪学と刑事法規制」

神野直彦委員「ジェンダーと三つの政府体系」

第3回委員会 ー平成13年2月16日ー

課題に関する報告

伊藤セツ委員「ジェンダー課題解決のツールとしてのジェンダー統計」

第4回委員会 ー平成13年3月22日ー

課題に関する討議

男女共同参画社会の確立にとって必要な方策と従来の学術研究についてのジェンダー視点からの見直しについて各委員から意見を述べ討議した。

第5回委員会 ー平成13年4月27日ー

日本の計画委員会の集中審議に向けての中間報告について

第6回委員会 ー平成13年5月29日ー

日本の計画委員会に向けて中間報告案について討議を行った。

第7回委員会 ー平成13年7月9日ー

課題に関する報告

柏木恵子委員「発達心理学の立場からの親子関係と発達に関する研究の動向」

第8回委員会 ー平成13年9月7日ー

課題に関する報告

大沢真理教授「ジェンダーの視点に立った学術の再構築ー社会政策研究に即して」

天野恵子教授から「Gender-specific Medicine のアメリカと日本の状

- 況」
- 第9回委員会　－平成13年10月12日－
課題に関する報告
大野 曜理事長「国立女性教育会館の女性学・ジェンダー問題に関する取組と今後の課題」
館かおる教授「ジェンダーの視点に立った学術の再構築――女性学・男性学・ジェンダー研究からの提起」
伊藤るり教授「ジェンダー視点に立った開発研究・移動研究の再構築」
- 第10回委員会　－平成13年12月25日－
課題に関する報告
内海房子氏「企業における女性技術者の処遇の動向」
- 第11回委員会　　－平成14年1月31日－
課題に関する報告
日黒依子教授「国際的視野に立ったジェンダー問題の検討」
- 第12回委員会　　－平成14年2月15日－
課題に関する報告
高橋清久委員「精神医学とジェンダー」
- 第13回委員会　　－平成14年3月19日－
課題に関する報告
田中かず子氏「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント問題について」
- 第14回委員会　　－平成14年4月19日－
課題に関する報告
折茂茂委員「Gender-Specific Medicine 性差を考慮した医療」
- 第15回委員会　　－平成14年5月10日－
課題に関する報告
伊藤公雄教授「ジェンダー研究をめぐって」
- 第16回委員会　　－平成14年6月24日－
課題に関する報告
鶴田満彦委員「フェミニスト経済学の可能性と問題点」
- 第17回委員会　　－平成14年9月20日－
特委の報告のとりまとめの方針について
- 第18回委員会　　－平成14年10月18日－
特委の報告・提言について、登録団体の回答分析、シンポジウムについて
- 第19回委員会　　－平成14年12月24日－
課題に関する報告およびシンポジウム打ち合わせ
藤野正隆委員「海事工学分野における女性学協会員と女性就学者・卒業者」
- 第20回委員会　　－平成15年1月27日－

課題に関する報告

島津 格委員「フェミニズムへの疑問——平等論への序章」

第21回委員会 —平成15年2月13日—

公開シンポジウムについての検討

第22回委員会 —平成15年3月27日—

報告書原稿についての審議

第23回委員会 —平成15年4月25日—

報告書についての審議

第24回委員会 —平成15年5月17日—

公開シンポジウム打ち合わせ

第25回委員会 —平成15年6月5日—

今後の課題などについて検討

(2) 公開シンポジウム。公開講演会等の開催状況

1 本特委の活動の概要を発表する公開講演会を開催した。

「ジェンダーと日本の学術」平成15年5月17日。

司 会	放送大学教授	原	ひろ子
ジェンダー問題の多角的検討			
	和洋女子大学特任教授	蓮 見	音 彦
女性研究者の研究環境の改善			
	名古屋大学教授	池 内	了
学協会における男女共同参画			
	文京学院大学教授	柏 木	恵 子
精神医学とジェンダーの視点			
	国立精神・神経センター総長	高 橋	清 久
社会政策とジェンダーの視点			
	東京大学社会科学研究所教授	大 沢	真 理

2 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会(JAICOWS)および複数の研究連絡委員会との共催による公開講演会を以下のように開催した。

①「科学研究費と女性研究者」平成13年3月30日

司 会	東京都立大学教授	浅 倉	むつ子
科学研究費補助金の仕組み			
	文部科学省学術研究助成課企画室長	佐久間	研 二
科研費と女性研究者問題			
	放送大学教授	原	ひろ子

非常勤講師にとっての科研費の問題点

立教大学非常勤講師 中 根 美知代
研究者の姓の表記について(別姓使用の制限)
慶應義塾大学助教授 加 藤 万里子

②「研究の世界における男女共同参画を目指して——学校教育とジェンダーを考える」平成14年3月25日

司 会 昭和女子大学教授 伊 藤 セ ッ
東京学芸大学教授 村 松 泰 子
学術研究と学校教育におけるジェンダー認識の関連
お茶の水女子大学教授 館 かおる
理数科教育とジェンダー——OECD・PISAの数学的・科学的リテ
ラシー調査結果の男女差を中心に
国立教育政策研究所 瀬 沼 花 子
大学の理工系学部における女性へのポジティブ・アクションの可能性——
関東学院大学工学部土木工学科の事例
関東学院大学教授 昌 子 住 江

③「学術の世界におけるセクシュアル・ハラスメント——加害と被害」平成14年12月24日

司 会 放送大学教授 原 ひろ子
博士号取得者の被害実態について
慶應義塾大学助教授 加 藤 万里子
大学の法的責任——教育研究環境配慮義務との関連で
立命館大学教授 松 本 克 美
キャンパス・セクシュアル・ハラスメントの解決に向けて
お茶の水女子大学教授 戒 能 民 江
国立大学等におけるセクシュアル・ハラスメント防止等について
文部科学省人事課審査班主査 出 澤 忠

④「研究者への育児支援」平成15年3月27日

司 会 専修大学教授 岩 井 宜 子
放送大学教授 原 ひろ子
研究者への育児支援について
文部科学省男女共同参画学習課女性政策調整官
渡 部 徹
研究者と子育て
東京医科歯科大学教授 都 河 明 子

応用物理学会のアンケート調査より

富士通カンタムデバイス	堂 免	恵
パネルディスカッション「楽しく子育ても研究も」		
慶應義塾大学助教授	加 藤	万里子
昭和女子大学助教授	中 山	栄 子
慈恵会医科大学助手	池島(片岡)	宏 子
富士通カンタムデバイス	堂 免	恵

(3) その他の活動

- 1 第17期の総会決議に基づく女性会員の増加に結びつけるために、会員推薦にかかわる学術研究団体の登録書類の改正について、推薦管理会に依頼し、19期会員推薦のための登録手続きから新たな書式によることに実現を見た。
- 2 本特委に置かれたワーキンググループを中心に、「研究者の別姓使用に関するアンケート」及び「学会大会の保育サービスに関するアンケート」の2つのアンケートを全会員を対象に実施した。